

1 月第 1 例会(クリスマス例会) 報告

日時:12 月 12 日(木)・18:30-20:30

場所:うえの山



鈴木さんの紹介で寿司割烹のお店「うえの山」が今年のクリスマス例会の会場、入り口は民家のような佇まいで入店に迷う人が続出する。ゲストの東田さんを含む 9 人が集まった。ビールで乾杯を済ませ次は岩手の酒「福来」を冷やで飲む。

「天然ですよー」と大皿が出た。身を剥がされたヒラメに敷いた大葉にマグロやサーモン、ブリの刺身が置かれ、皿の周りにあしらわれた大根のけんに隠れて薄切りのヒラメが行儀よく並び、4カ所に薬味のわさびが配置されている。小皿に醤油を入れ、わさび混ぜているのを見た隣の島崎さんが、「それじゃ刺身の味が分からないでしょう」という。「刺身にわさびを少し載せて、小皿の醤油をチョンとつける」とうんちくを語る。

国民学校初等科に入学したその年の 8 月に戦争が終わった。食べ盛りだった頃だが、まともなものを口にすることがない。兄貴が採ってきたヤマゴボウらしきものを味噌漬けにして食べ、家族全員下痢したことがある。また、近郊の畑に捨ててあるサツマイモのつるを分けてもらい、皮をむいて煮付けにした。とにかくひもじかった。魚嫌いのおやじの所為で、魚料理といえばイワシの丸干しかアジの開きぐらいしか食卓には出なかった。4、5 年生になった頃、おやじも偉くなったのか、接待で頂いた折詰を持って帰るようになり、その中の刺身は初めての食べ物だった。「バイキンを殺すから」と醤油にわさびを溶かし、刺身にたっぷり浸けて食べることを教わった。未だその教えを守っている。「野暮」と言われようが「雀百まで踊り忘れず」である。

「島崎さん、それ、落語に出てくる江戸っ子の蕎麦喰いの話じゃない？」落語「蕎麦清」の枕噺で「蕎麦はつゆをチョンと浸けて食べるものよ」と粋がっていた江戸っ子が、今際の際(いまわのきわ=死にぎわ)に思い起こすことはないか、と問われ「今生の別れにたっぷりつゆを浸けたそばが食いたい」。

高田さんの寄稿文にある、「飢えに苦しんだ世代の一

人として」身につまされるお話である。好きな物を、腹いっぱい、そして美味しく食べられる世の中と、それを満たしてくれた「うえの山」に感謝したい。



1945 年 8 月、疎開先から帰り着いた名古屋駅の駅舎は空襲で薄汚れ、2 年前に出発したときの面影はなかった。今は立派なビルが建つ。

2 月第 2 例会報告

日時:12 月 26 日(木)・18:45-19:45

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 連絡事項・島崎

(1) 1 月第一例会

1 面参照のこと

(2) 2 月第一例会

2 月 13 日(木)午後 6 時 45 分から YMCA 会議室で行い、場所を移して 7 時半より反省会を開催する。

(3) 新会長・主査研修会

開催日は 3 月 8-9 日、場所未定

(4) 障害者アート展

(5) EMC セミナー

a. 詳細 1 面参照

b. なお、「2013-14 西日本区大会の余剰金を中部の各 YMCA へ贈呈する式」を行いますので、大会実行委員だった方は当日午後 1 時に集合のこと。

(6) リーダー激励会

詳細 1 面参照・出席者 1 月第 1 例会で確認

2. ワイズ通信の報告(11/28-12/25)・榎田

W=西日本区 HP・c=中部 HP をご覧ください。

(1) 理事通信第 2 号発行・c

(2) YMCA ビッグハートプロジェクト報告

(3) メネット事業通信第 2 号

(4) フィリピン台風 30 号被災地現地報告

(5) 中部部長通信第 4 号・c

(6) メネット支援金未入金クラブへのお願い

(7) 国際選挙について・W

(8) アジアユースコンペケーション報告会の案内・W

(9) 次々期(2016-2017)理事長自薦・W

(10) ファンド事業通信第 2 号・W

(11) 2014 ユースコンペケーション募集案内・W

コピーした書面が必要な方は榎田まで連絡のこと。

老人ホームでクリスマスを祝う

12 月 22 日午前 11 時半、大島さんのクルマで小澤邸に到着する。軽い機器類はワゴン車に積み込まれてい

だが、重い Hammond オルガンの本体とスピーカーは残っている。お手伝いの若者 1 人と年寄 3 人では手に負えないらしく、応援を待っているところだった。「枯れ木も山の賑わい」、5 人で何とか載せて、食事を済ませ、会場の「アミーユ高辻」に向かう。会場となる食堂を施設のスタッフと整え、機材を運び込む。

2 時開演、小澤さんの司会でいつも通り鈴木先生の前奏、「ぽこ・あ・ぽこ」の合唱、稲場さんのギター弾き語り、と進み、最後は「燃えよ! ドラゴンズ」でお開きとなった。



Hammond オルガンを運び込みホッと一息、サンタの帽子を被ってみなさん、「はい、チーズ」。



想念寺の子供コーラス「ぽこ・あ・ぽこ」、正面の小さな子は 4 歳、この施設へ最初にお邪魔した時はお母さんに抱かれていた。



サンタクロース、トナカイなどのぬいぐるみを着た施設スタッフに想念寺の子供コーラス「ぽこ・あ・ぽこ」、

ギター弾き語りの稲場さんと司会の小澤さんが勢揃い、鈴木先生の演奏でアンパンマンのマーチを歌う。



セーラー服姿の女子高生が自転車に乗って、スカートの裾をなびかせて川の土手を走る映画のシーンを思い出しながら、「青い山脈」を同年代の女性と歌うお二人。

2013 クリスマス・キャロル

毎年恒例の YMCA クリスマス・キャロルが 12 月 23 日、JR 名古屋駅タワーズガーデンで行われた。各クラブのメンバーは午後 4 時に集合して、荷物の搬入、照明や音響機器の組み立てのお手伝いなど、準備作業に追われる。

6 時開演、安井正規氏による電子オルガンの前奏に続き、一般公募で参加した 114 人が讃美歌 111 番を始め、クリスマスソングを観客人達と一緒に歌い、楽しみ、ジングルベルで 1 回 30 分の公演を終えた。

島崎さん、鈴木さん、私と東海クラブの浅野さんの 4 人は聖歌隊の後ろに立つ横断幕の支柱を保持する役目。幸い風は弱かったが、最高気温 10℃、最低気温 0℃のこの日、立っていると寒さがつま先からジンジンと登ってくるような嫌な感覚に耐え、「終わったら熱燗でキュと一杯」と不謹慎なことを考えながら 2 回目の公演も終わり、1, 2 回合計 1 時間の我慢でした。

2 回目の公演が終わった 7 時半、電気コードを巻き、のぼり・横断幕を畳むなどの後片付けを済ませ、早々に毎年お世話になる飲み屋へ 4 人で繰り込んだ。



午後 4 時ごろ駅の正面玄関横に止めた車から、照明器具、電子オルガンの本体と付属部品を運ぶ。



11月から5回の練習を経てこの舞台に立つ一般公募の混声聖歌隊114人。

食べること味わうこと

先月、我々のクラブのクリスマス例会で寿司会席を満喫した。食べることの喜び、味わいを感じ幸せになる、ある冊子に載ったコラムニストの記事が目にとまり、皆様に紹介いたします。

ある日のこと、鷹狩りに出た秀吉は、喉が渇いてある寺に立ち寄った。そして、その接待にあたったのが寺小姓をしていた石田三成だった、という。三成はただちに大きな茶碗に七、八分ほどのぬる加減の茶を差し出すと、秀吉はそれを一気に飲み干し、さらにもう一杯と所望した。すると三成は前よりやや熱加減の茶を茶碗に半分ほど入れて秀吉にすすめたのであった。これを飲み干した秀吉がさらにもう一杯と求めると、今度は小さな茶碗に熱い茶を少しだけ入れて差し出した。秀吉はこの三成の対応ぶりに大いに感じ入り、その才氣を愛(め)でて自分の小姓にしたというのである。これが三成の“三献(さんこん)の茶”として伝えられているエピソードだが、ここに登場する三つのシチュエーションは、我々が日常的に感じている食べ物の味も、深くかかわっているのではないか。

すなわち第一段階においては、空腹を満たすために食べることがすべてに優先するから、あれこれと味覚談義などしている余裕はないのである。そのことは、戦中戦後の食糧難時代を体験したり、貧困や災害などで空腹に耐えながら生きて来た人達でなくとも、ちょっと想像力を働かせればわかることであろう。

現代のグルメ談義が盛んなのは、多くの人達が「とにかくお腹を満たせばいい」という状態から抜け出して、より美味しいもの、より口に合うものを求める余裕ができてきたからだ。然しながら飢えに苦しんだことのある世代の一人として、喜ばしいことの一つであると同時に、大いに感謝すべきであると思っている。出来ることなら、これから先も秀吉が小さな茶碗を前にしているのと同じような状態や心境で、目の前の料理を味わいたい。

と結ぶ。年末年始にはおせち料理やご馳走を賞味できる豊食(飽食?)の日本に生きられることを重ねて感謝しないとイケない。

(高田 廣)

聖書の言葉

【何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたが自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか。あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができず、争ったり戦ったりします。得られないのは、願い求めないからで、願い求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った動機で願い求めるからです。(ヤコブの手紙4.1-3)】

【チャド、カメルーン、コンゴなど6ヶ国と国境を接する内陸の国、中央アフリカ共和国は、1960年にフランスから独立した後クーデターが繰り返される。2003年に反政府武装勢力「セレカ」が、2013年3月首都バンギを制圧するとボジゼ大統領は国外に脱出し、セレカの指導者が暫定大統領就任を宣言して新政権が発足、以降両教徒の武装集団の間で戦闘が頻発し無政府状態が続く。11月5日、フランスは「これ以上の暴力の激化は見見過ごせない」と軍事介入に踏み切る。報道はこの国の紛争を「宗教対立」と表現するが、原因には言及していない。国民の50%を占めるキリスト教徒が支持する政権が、15%のイスラム系反政府組織の連合体に政権を奪われると、キリスト教徒の民兵組織がイスラム教徒を襲撃するようになり、その報復でセレカの兵士がキリスト教徒を襲うという連鎖が内戦の実態であるようだ。『キリスト教徒の民兵組織がイスラム教徒の住宅を襲撃し、男性約60人を殺害。これに対し、イスラム系武装勢力「セレカ」の戦闘員が報復し、1000人近くを殺害した』とアムネスティ(国際人権救援機構)が伝えている。原因は単なる「憎悪」だけである。】

Zoom・敬老パス

名古屋市の敬老パスは、65歳以上の年寄が応分の負担金を払い、1年間市バスや地下鉄が乗り放題のパスを受ける制度。昭和48年、当時の本山市長が「今の65歳以上は、戦争に青春を奪われ、戦後は一生懸命働き、日本の復興や高度成長を支えてくださった方たちだ。そうした方々へのお礼の意味があつていい」と導入した。現在、事業費に税金120億円余りが使われており、制度の見直しが検討されている。制度発足の趣旨を尊重すれば、経済白書が「戦後の一時期に比べれば、その欲望の熾烈さは明らかに減少した。」もはや戦後ではない」と宣言した昭和31年に生まれた人たちが65歳になる8年後に廃止したら・・・どうか。